

# 平成29年度事業報告

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

公益社団法人 島根県水産振興協会

法人運営管理

I 会議開催の状況

| 会議内容    | 開催日、場所                       | 審議内容   |
|---------|------------------------------|--|
| 第64回理事会 | 平成29年5月17日(水)<br>松江エクセルホテル東急 | 第1号議案 平成28年度事業報告<br>及び収支決算承認の件<br>第2号議案 役員選任の件<br>第3号議案 島根県水産振興協会給<br>与規程一部改正の件<br>第4号議案 第30回通常総会付議<br>事項の件  |
| 第65回理事会 | 平成29年6月27日(火)<br>松江エクセルホテル東急 | 第1号議案 会長及び専務理事選任<br>の件   |
| 第66回理事会 | 平成29年11月8日(水)<br>松江エクセルホテル東急 | 第1号議案 会員入会の件<br>報告事項 役員の変更の件<br>業務執行状況報告<br>(平成29年4月～9月)   |
| 第67回理事会 | 平成30年2月15日(木)<br>松江エクセルホテル東急 | 第1号議案 平成30年度事業計画<br>(案)及び収支予算(案)<br>承認の件<br>第2号議案 島根県水産振興協会臨<br>時職員就業規則一部改<br>正の件<br>第3号議案 島根県水産振興協会定<br>年後継続雇用職員就業<br>規則制定の件<br>第4号議案 島根県水産振興協会旅<br>費規程一部改正の件<br>報告事項 隠岐島後部会不適切経<br>理事案の件 |
| 第30回総会  | 平成29年6月27日(火)<br>松江エクセルホテル東急 | 第1号議案 平成28年度決算承認<br>の件<br>第2号議案 役員選任の件<br>報告事項 平成28年度事業報告<br>の件<br>平成29年度事業計画<br>及び収支予算の件<br>平成29年度会費の件<br>基本財産運用状況の件  |

## II 公益社団法人島根県水産振興協会地域水産振興部会総会等への出席

| 開催月日         | 会議名             |
|--------------|-----------------|
| 平成29年 5月 9日  | 隠岐島前地域水産振興部会幹事会 |
| 平成29年 5月 10日 | 石見西部地域水産振興部会幹事会 |
| 平成29年 5月 15日 | 石見西部地域水産振興部会総会  |
| 平成29年 6月 7日  | 隠岐島前地域水産振興部会総会  |
| 平成29年 6月 26日 | 石見東部地域水産振興部会総会  |
| 平成29年 7月 3日  | 出雲東部地域水産振興部会総会  |
| 平成29年 9月 26日 | 出雲西部地域水産振興部会総会  |
| 平成30年 1月 17日 | 隠岐島後地域水産振興部会総会  |

## III 関係会議の開催

| 年月日・場所                   | 会議名               | 備考  |
|--------------------------|-------------------|---|
| 平成29年9月20日<br>隠岐支庁島前集合庁舎 | 隠岐地域水産振興部会担当課長会議  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の部会体制について</li> <li>・中間育成体制について</li> </ul>   |
| 平成29年9月27日<br>大田集合庁舎     | 本土側地域水産振興部会担当課長会議 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度予算執行見込について</li> <li>・来年度予算について</li> </ul>  |
| 平成30年3月8日<br>ホテル白鳥       | 地域水産振興部会担当者会議     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度事業報告、決算(案)について</li> <li>・来年度事業計画、予算(案)について</li> <li>・種苗生産計画について</li> <li>・中間育成・輸送・放流計画について</li> <li>・部会予算の適正な執行について</li> </ul> |

## IV 外部会議等への出席・参加

| 開催月日         | 会議名                       |
|--------------|---------------------------|
| 平成29年 6月 16日 | 島根県漁業信用基金協会第64回通常総会       |
| 平成29年 6月 23日 | 島根県水難救済会第18回総会            |
| 平成29年 6月 24日 | 漁業協同組合JFしまね第12回通常総代会      |
| 平成29年10月 12日 | 日本海水産公益法人担当者会議(秋田市)       |
| 平成29年10月 28日 | 全国豊かな海づくり大会(宗像市)          |
| 平成29年12月 19日 | 隠岐地区栽培漁業研修会(西ノ島町)         |
| 平成30年 1月 25日 | 隠岐のいわがきブランド化推進協議会総会(海士町)  |
| 平成30年 1月 29日 | 第3回海域栽培漁業推進協議会全国連絡会議(東京都) |
| 平成30年 2月 2日  | 平成29年度西日本種苗生産機関連絡協議会(延岡市) |

## V 登記に関する事項

| 年 月 日     | 登 記 事 項                              | 登 記 先   |
|-----------|--------------------------------------|---------|
| 平成29年9月5日 | 代表理事の変更登記<br>松田和久退任<br>久保田章市就任       | 松江地方法務局 |
|           | 理事（1名）監事（1名）の変更<br>登記<br>松田和久、河上信男退任 |         |
|           | 理事（1名）監事（1名）の登記<br>池田高世偉、田中和明就任      |         |

## VI 事業及び経理上の重要事項

○行政庁による立入検査

| 年 月 日      | 検 査 内 容   | 結 果      |
|------------|---|----------|
| 平成29年12月5日 | ①事業関係（公益事業内容）<br>②財務基準関係（公益目的事業<br>比率、収支相償、財産目録等）<br>③ガバナンス関係（総会、理事<br>会、監査状況、役員変更届、<br>法定書類の備置き等）<br>④会計関係（会計帳簿、債券保<br>有状況、財産目録、貸借対照表、<br>正味財産増減計算書、契約書<br>等）<br>⑤事業報告等に係る定期提出書<br>類の状況等 | 特に指摘事項なし |

（検査員） 所管課：農林水産部水産課水産しまね振興室 2名

総務課：総務部総務課公文書・公益法人スタッフ 2名

## Ⅶ 部門別の事業活動概況

### 公益目的事業

#### 松江本部

### 1. 沿岸漁場整備開発促進事業

#### (1) 受託事業

##### ①水産環境整備事業漁場利用状況調査業務（県漁港漁場整備課）

- 県下の一本釣漁業者に調査野帳を配付し、利用回数、漁獲量、魚種等を記録してもらい、人工魚礁の利用状況の調査を行った。

##### ②種苗放流による資源造成支援事業

（(公社)全国豊かな海づくり推進協会を事務局とした日本海中西部海域栽培漁業推進協議会で実施）

- 日本海中西部海域（石川、福井、京都、兵庫、鳥取、島根、山口県を対象）の関係県で連携して、放流種苗の生残率の向上を図り、効率的な資源維持増大を図る目的で、標識放流を行った。

#### (2) 助成事業

##### ①海難遺児に対する育英資金の給付

- 平成29年度は、該当なし。

##### 【給付額】

| 対象     | 月額      |
|--------|---------|
| 幼児・小学生 | 4,000円  |
| 中学生    | 5,000円  |
| 高校生    | 7,000円  |
| 大学生    | 11,000円 |

##### ②その他の助成

- 助成事業実施規程に基づき公募を行い、選考委員会において審査した結果、下記の団体を対象として助成した。

| 助成団体                | 事業名                        | 助成金額     |
|---------------------|----------------------------|----------|
| 島根県内水面漁業協同組合連合会     | 内水面漁業環境保全啓発活動事業            | 230,000円 |
| 特定非営利活動法人<br>隠岐しおさい | しおさい感幸交流で紡ぐ、豊かなしまねの里海未来塾事業 | 158,906円 |
| 大田市消費者のつどい          | 農林水産物の地域内消費拡大事業            | 158,430円 |

## 2. 中間育成・放流事業

### (1) 中間育成・放流

平成 27 年 4 月に策定された島根県第 7 次栽培漁業基本計画に基づき、県下 6 地域の水産振興部会と連携しながら、ヒラメ・マダイ稚魚の中間育成および放流を実施し、積極的に資源の回復、漁業生産の増大を図った。

(事業費には、全国海づくり推進協会補助金、県単強い水産業づくり交付金、地元負担金、栽培漁業推進ファンドの運用益を充当)

#### ①ヒラメ中間育成・放流

平成 29 年 4 月～5 月にかけて 45mm のヒラメ 37 万尾を、浜田市、大田市、松江市の中間育成施設へ搬入・育成し、県内 21 か所（出雲東部 6 か所、出雲西部 3 か所、石見東部 5 か所、石見西部 7 か所）において放流した。

| 搬入時期                | 搬入数量・サイズ    | 放流時期        | 数量・サイズ                | 場所       | 歩留り |
|---------------------|-------------|-------------|-----------------------|----------|-----|
| 平成 29 年 4 月<br>～5 月 | 370 千尾、45mm | 平成 29 年 6 月 | 343 千尾、<br>105～132 mm | 県内<br>各地 | 92% |

#### ②マダイ中間育成・放流

平成 29 年 7 月に 45mm のマダイ 65 万尾を、西ノ島町と松江市の中間育成施設へ搬入・育成し、県内 21 か所（隠岐島前 8 か所、隠岐島後 8 か所、出雲東部 5 か所）において放流した。

| 搬入時期        | 搬入数量・サイズ    | 放流時期             | 数量・サイズ               | 場所          | 歩留り |
|-------------|-------------|------------------|----------------------|-------------|-----|
| 平成 29 年 7 月 | 650 千尾、45mm | 平成 29 年 8～9<br>月 | 607 千尾、<br>93～122 mm | 隠岐・<br>松江各地 | 93% |

### (2) 放流効果調査（集計期間 平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで）

西ノ島町・大田市・浜田市の 3 か所において、ヒラメ、マダイの放流効果調査を 31 回行った。

#### 市場調査結果

| 調査場所   | 対象         |     | 調査内容        |             |            |            |
|--------|------------|-----|-------------|-------------|------------|------------|
|        | 漁法         | 魚種  | 調査回数<br>(回) | 調査尾数<br>(尾) | 標識魚<br>(尾) | 混獲率<br>(%) |
| 西ノ島町浦郷 | 定置網・刺網・一本釣 | マダイ | 12          | 295         | 15         | 5.1        |
| 大田市和江  | 小型底曳網      | ヒラメ | 5           | 604         | 25         | 4.1        |
| 浜田市原井町 | 沖合底曳網      | ヒラメ | 14          | 997         | 38         | 3.8        |

(3) 栽培漁業のPR活動

- ① 漁業者が、地先海域の資源を管理しながら増やしていくために積極的な活動を行っていることや、栽培漁業の重要性を一般の方々に広く知ってもらえるよう、県下各地で稚魚の体験放流事業を実施した。
- ② 各種イベントに参加し、展示、広報活動を行った。
- ③ 各種の情報媒体及びホームページを通じて周知・PRに努めた。

ヒラメ・マダイ体験放流 (開催回数 17回)

| 部会名  | 開催日                 | 放流場所            | 回数 | 参加者  |
|------|---------------------|-----------------|----|--|
| 隠岐島前 | 9月11日<br>～<br>9月26日 | 西ノ島<br>海士<br>知夫 | 3回 | 西ノ島小学校 42名<br>海士小学校 福井小学校 24名<br>知夫小学校 10名   |
| 出雲東部 | 8月10日<br>～<br>9月22日 | 松江市             | 9回 | 松江市議会議員 4名<br>野波保育所 マリン保育所 恵曇保育園<br>御津保育園 美保関西保育所<br>美保関東保育所<br>鹿島東小学校 恵曇小学校 佐太小学校<br>島根小学校 大芦小学校 228名 |
| 出雲西部 | 6月7日                | 出雲市             | 1回 | 大社小学校 51名  |
| 石見東部 | 6月20日               | 大田市             | 1回 | 静間小学校 25名  |
| 石見西部 | 6月2日<br>～<br>6月13日  | 浜田市 江津市<br>益田市  | 3回 | 浜田市長 江津市議会議員 7名<br>遠田保育園 北仙道保育園<br>周布小学校 桜江小学校 89名   |

3. 種苗供給事業

(1) 栽培漁業の推進、養殖漁業に必要な各種の種苗について、斡旋、配付を行った。

| 種苗名    | 数量       | 購入先府県       |
|--------|----------|-------------|
| ウナギ    | 270kg    | 熊本県         |
| クロアワビ  | 212,900個 | 島根県・愛媛県・徳島県 |
| メガイアワビ | 4,800個   | 島根県         |
| トコブシ   | 14,000個  | 神奈川県        |
| ヒオウギガイ | 100,000個 | 熊本県         |
| ワカメ    | 213枠     | 徳島県         |
| イワガキ   | 7,000枚   | 長崎県         |
| アカウニ   | 25,000個  | 福岡県         |
| コンブ    | 2枠       | 青森県         |
| キジハタ   | 15,900尾  | 大阪府         |
| オニオコゼ  | 10,200尾  | 長崎県         |
| カサゴ    | 10,000尾  | 長崎県         |
| アカアマダイ | 3,000尾   | 山口県         |

## 栽培漁業センター

### 4. 栽培漁業センター事業（県受託事業）

- ① つくり育てる漁業（栽培漁業）を推進するための、健苗性の高い放流用種苗、養殖用種苗の生産。
- ② 生産した種苗の出荷・引き渡し。
- ③ 種苗生産施設、機器、調査船、公用車の適切な維持管理。
- ④ 放流用種苗の中間育成技術指導を行い、健苗性、疾病の有無、成長状況についての確認。
- ⑤ 島根県が行う水質環境等の調査等への協力。

#### 【種苗生産契約数量】

| 区分  | 種類   | 規格                 | 数量     | 生産時期        |
|-----|------|--------------------|--------|-------------|
| 放流用 | マダイ  | 平均全長 45 mm         | 650 千尾 | 5～7 月       |
|     | ヒラメ  | 平均全長 45 mm         | 370 千尾 | 4～5 月、1～3 月 |
| 養殖用 | イワガキ | コルター 1 枚当たり 10 個以上 | 11 万枚  | 5～12 月      |

#### 【主な日程】

| 月    | 日     | 事項                    |
|------|-------|-----------------------|
| 4 月  | 14 日  | 平成 29 年度水産振興担当者会議（出雲） |
| 4 月  | 18 日～ | 5 月 9 日               |
| 5 月  | 19 日～ |                       |
| 5 月  | 29 日～ | 7 月 26 日              |
| 6 月  | 8 日～  |                       |
| 6 月  | 8 日～  | 6 月 9 日               |
| 7 月  | 18 日  |                       |
| 8 月  | ～     | 9 月                   |
| 10 月 | 11 日～ |                       |
| 10 月 | 25 日～ | 10 月 26 日             |
| 10 月 | 25 日～ |                       |
| 11 月 | 13 日～ | 11 月 16 日             |
| 12 月 | 21 日  |                       |
| 1 月  | 15 日～ | 1 月 18 日              |
| 1 月  | 31 日～ |                       |
| 1 月  | 25 日  | 2 月 3 日               |
| 3 月  | 8 日   |                       |
| 3 月  | 12 日  |                       |



(1) 放流・養殖用種苗の生産に関する業務及び出荷業務

① ヒラメ種苗(受託内容 平均全長:45mm 尾数:370千尾)

**目標**

ヒラメ無眼側黒化の出現を抑え、大きさに大小差が少なく、健苗性の高い種苗の生産。

**結果**

平成29年1月に種苗生産を開始した。出荷前検査でシュードモナス症の検査(水産技術センター内水面浅海部に依頼)と無眼側黒化の出現割合の確認を行った。

シュードモナス症は陰性であった。

無眼側黒化検査では正常魚が89~95%確認された。無眼側黒化の出現を抑え、健苗性の高い種苗が出荷できたと考えられる。

島根県職員による4回の検査を受けたのち引き渡しを終了した。

**【出荷種苗尾数】**

| 出荷先  | 石見西部部会<br>(浜田市) | 石見西部部会<br>(浜田市) | 石見東部部会<br>(大田市) | 出雲東部部会<br>(松江市) | 合計       |
|------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|----------|
| 出荷月日 | 4月18日           | 4月20日           | 4月26日           | 5月9日            |          |
| 出荷尾数 | 105,000尾        | 100,000尾        | 110,000尾        | 55,000尾         | 370,000尾 |

**【シュードモナス検査結果】**

| 検査日   | No1水槽 | No5水槽 | No6水槽 | No7水槽 | 角型100t水槽 |
|-------|-------|-------|-------|-------|----------|
| 4月10日 | 陰性    | ;     | 陰性    | 陰性    | 陰性       |
| 4月18日 |       | 陰性    |       | 陰性    |          |
| 4月26日 |       | 陰性    |       | 陰性    |          |

**【無眼側黒化の出現割合】**

| 飼育水槽 | 正常魚   | 黒化軽度 | 黒化中度 | 黒化重度 |
|------|-------|------|------|------|
| No5  | 89.5% | 7.6% | 2.9% | 0%   |
| No6  | 95%   | 5%   | 0%   | 0%   |
| No7  | 89%   | 10%  | 1%   | 0%   |

② マダイ種苗（受託内容 平均全長：45 mm 尾数：650 千尾）

**目標**

奇形魚の出現を抑え、大きさに大小差が少なく、健苗性の高い種苗の生産。  
平成 28 年度生産で発生した大量へい死が発生しないよう留意した生産。

**結果**

平成 29 年 5 月中旬から種苗生産を開始し、計 1,375 万尾の孵化仔魚を得たが、日齢 16～22 日に仔魚の大量斃死が発生したことから、受託尾数を確保するため（公社）山口県栽培漁業公社から 23 万尾の種苗の譲渡を受けた。

大量斃死などによって、種苗の自家生産尾数は 42 万尾となり、山口県からの譲渡分を合わせて 65 万尾の種苗を出荷した。島根県職員による 7 回の検査を受けたのち引き渡しを終了した。

出荷前に X 線を使用した奇形魚の検査を行った。奇形率は全体の 3%であり、良好な結果が得られた。

**斃死の原因**

斃死が生産の初期に発生し、多数の稚魚が一挙に斃死することから、水質の悪化と初期餌料のワムシに原因があると考え対策を行った結果、斃死は初期餌料のワムシに原因があると考えられた。

同様の症状による斃死は他県のセンターでも発生しているが、魚病学的な研究が進んでおらず詳細は判明していない。腹部膨満症の疑いもあるため、次年度生産ではワムシを今まで以上に洗浄し給餌を行うなどの対策を講じる。

**【出荷種苗尾数】**

| 出荷先  | 隠岐島前部会                | 出雲東部部会    | 合計        |
|------|-----------------------|-----------|-----------|
| 出荷月日 | 7月11～26日              | 7月20、24日  |           |
| 種苗由来 | 島根県産 32 万尾、山口県産 23 万尾 | 島根県産      |           |
| 出荷尾数 | 550,000 尾             | 100,000 尾 | 650,000 尾 |

**【奇形魚検査結果】**

| 飼育水槽  | 正常魚 | 奇形魚 |
|-------|-----|-----|
| No6   | 97% | 3%  |
| 200 t | 97% | 3%  |

③ イワガキ種苗（受託内容 コルター1枚当たり種苗10個以上 コルター枚数 11.0万枚）

**目標**

イワガキ種苗の要望数は増加傾向にある。増加する要望に応えるため歩留まりの向上。

**経過**

平成29年5月下旬から生産を開始したが、1、2回次の生産が不調であったため、10月下旬から種苗の出荷を行った。

イワガキ種苗の需要は年々増加しており、本年度は要望に応えるため9回次の生産を実施し、総出荷枚数は、前年度生産分12,430枚を合わせて197,020枚となった。

**生産不調の原因**

自家餌料の培養不足により、必要な餌料量が確保できなかったことと、飼育水の換水の遅れや給水量不足により水質が不安定になり、浮遊期の稚貝が斃死した。

また、沖出し後の選別作業の遅れによるヒラムシの食害も発生した。

次年度生産では、細胞密度の高い安定した自家餌料を生産するとともに、飼育水の換水率の増加や必要な水量の確保を行うことなどにより、浮遊幼生の歩留まりの向上を図り、安定した種苗の生産を目指す。

**【イワガキ生産状況】**

| 回数   | 生産枚数     | 備考                             |
|------|----------|--------------------------------|
| 1回次  | 11,300枚  | 8月から選別を行った。ヒラムシによる食害が多く見られた。   |
| 2回次  | 7,575枚   | ヒラムシによる食害以外の痕跡も見られる。           |
| 3回次  | 3,900枚   | 付着させる幼生数が少なかったため、軟材採苗器は未使用     |
| 4回次  | 30,350枚  | ホタテ殻歩留まり88%、軟材採苗器16.1%         |
| 5回次  | 36,095枚  | ホタテ殻歩留まり84.7%、軟材採苗器57.6%       |
| 6回次  | 29,700枚  | 付着させる幼生数が少なかったため、軟材採苗器は未使用     |
| 7回次  | 全廃棄      | 斃死、全廃棄                         |
| 8回次  | 18,350枚  | 採苗器投入後、大量斃死が起こったため軟材採苗器は未使用    |
| 9回次  | 33,320枚  | ホタテ殻歩留まり62.9%、軟材採苗器46.8%       |
| 追加要望 | 14,000枚  | B規格の2枚を1枚に換算して配布（B規格28,000枚配布） |
| 去年度産 | 12,430枚  |                                |
| 合計   | 197,020枚 |                                |

(2) 施設の維持管理に関する業務

| 項目           | 内容  |
|--------------|---|
| 種苗生産施設       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・機器の定期点検、清掃等施設の日常管理を行なった。</li> <li>・県水産課に施設の老朽化の状況の報告を行った。</li> </ul>                                |
| 機器の保守点検      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・部品交換及び復旧点検等を行ない、維持管理を行った。</li> <li>・関係法令により、資格者を必要とする電気工作物、ボイラー保守管理業務等については、専門業者に再委託をした。</li> </ul> |
| 調査船、公用車の維持管理 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常点検、法定検査や部品交換等を行った。</li> </ul>   |
| その他          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月にスズメバチの巣を2か所撤去。</li> <li>・飼育施設周辺の水路の清掃を行った。</li> </ul>   |

(3) その他研修、会議等への出席

① マダイ中間育成指導

毎週中間育成種苗の状況を確認し、指導を行った。

- ・成長に合わせて配合飼料の種類や大きさを変更するよう指導した。
- ・1生簀に対する種苗の収容量を昨年度より多くし(25,000尾から30,500尾に変更)高密度で飼育できるか試験した。

② 一般社団法人広島県栽培漁業協会との技術意見交換会

広島県栽培漁業協会と種苗生産技術に関し、意見交換を行った。

- ・広島県栽培漁業センターと島根県栽培漁業センターの技術的な交流の検討。
- ・広島県の運営方針等意見交換し、将来的な魚種交換、提供の可能性を探った。
- ・植物プランクトンの培養技術の提供を受けた。

5. 種苗生産・中間育成に係る課題等

(1) 種苗生産技術等

| 種別   | 項目        | 対策  |
|------|-----------|---|
| マダイ  | 大量斃死の防除   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・水質の悪化とワムシからの細菌症の感染を考慮した生産方法を検討する。</li> <li> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水質の悪化防ぐため、注水量を増加するとともに水槽の掃除の回数、方法の変更を行う。</li> <li>・ワムシは給餌前に紫外線殺菌水で長時間洗浄し、細菌数を減らしたものを給餌する。</li> </ul> </li> <li>・ワムシの培養槽での悪性細菌の増殖を防ぐ方法について調査する。</li> </ul> |
| ヒラメ  | 無眼側黒化低減対策 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度から黒化の出現状況が改善され、3年間連続して良い結果が得られている。黒化低減対策の技術的な要点をまとめたマニュアルを作成し、今後も継続して良い結果が得られるよう飼育を徹底する。</li> </ul>   |
| イワガキ | 浮遊幼生の斃死   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度生産から大型水槽(50t、100t)を使用して浮遊幼生の管理を行っているが、歩留まりが安定していない。自家培養餌料の細胞密度の高い安定した培養や培養量の増産、選別時期や繁忙期の人員の確保、飼育水の水替えの時期を早めたり、水量を多くするなどの対策を行う。</li> </ul>   |

(2) 中間育成について

| 項目     | 現 状・対 策   |
|--------|---|
| マダイ    | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 1 生簀に対する種苗の収容量を昨年度より多くし (25,000 尾から 30,500 尾へ変更)、使用する筏の数量を減らすことで、網替えなどの作業を軽減した (筏使用数 22 台から 18 台へ変更)。放流時の種苗の状態は良好であり、密度増加による異状は見られなかった。</li></ul> |
| ヒラメ    | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 各中間育成施設で病気の発生はなく飼育環境は良好であった。</li><li>・ 栽培漁業センターで、鰭カットによる標識の有用性の実験中。</li></ul>   |
| 中間育成施設 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 施設の老朽化、育成者の高齢化に伴って、益田施設の浜田への集約を図った。また、和江施設は、平成 30 年度から浜田へ集約する。今後、更に施設の集約化を図るとともに、育成者を養成することが必要。</li></ul>   |